



医療薬学・社会連携センター  
社会薬学部門 教授

山浦 克典  
ヤマウラ カツノリ

博士（薬学）

Professor  
Division of Social Pharmacy  
Center for Social Pharmacy and Pharmaceutical Care Sciences

YAMAURA Katsunori

Ph.D. in Pharmacy

薬局薬剤師／人工知能／  
ステロイド外用薬／ポリファーマシー

community pharmacist／  
artificial intelligence／  
topical steroids／polypharmacy

## 研究概要

我が国では世界に類を見ない速さで高齢社会化が進んでおり、平均寿命および高齢化率共に世界一の超高齢国家となっています。これに伴い国民医療費は増加の一途をたどり、我が国の社会保障制度自体の存続を脅かす最大の要因となっています。そこで、疾病治療から予防へ軸足をシフトさせることが急務であり、薬局薬剤師のセルフケア分野での貢献が期待されています。

我々社会薬学部門の教員は、教育・研究活動のほか、キャンパス内の附属薬局で保険薬剤師業務にも従事し、臨床現場における課題の中から研究課題を抽出し、薬局薬剤師業務を支援するツールの開発、薬局薬剤師の社会における貢献度の数値化、セルフケアにおける新たな薬剤師職能の提案をテーマに以下の研究を行っています。

1. 服薬指導は保険薬剤師として最も重要な対人業務ですが、ベテランと新人とは指導内容に差が生じます。この差をなくし、均質な指導を患者に提供することを目的に、人工知能（AI）を使って薬剤師の服薬指導を支援する薬学的推論システムの開発研究に取り組んでいます（埼玉大学大学院理工学研究科、東日本メディコム株式会社と共同研究）。
2. 老健施設に入所する高齢者に対し、保険薬局が施設と連携してポリファーマシー解消に取り組むことの有用性と貢献度を検討しています（AMED委託研究開発事業）。また、外用薬の服薬指導は治療効果に大きく影響します。そこで、恐怖症患者の多いステロイド外用薬の適正使用における薬剤師の服薬指導の有用性と貢献度を検討しています。
3. 検体測定室および口腔内環境チェックを薬局の新機能として活用し、自覚症状のない高血糖や高LDL血症、歯周病・虫歯の早期発見を担う、新たなセルフケアの番人としての薬剤師職能の可能性を検討しています。

In the Division of Social Pharmacy, we are conducting the following research.

1. We are working on the development of a pharmaceutical inference system that supports pharmacist counseling by artificial intelligence (AI) so as to eliminate the difference between veteran pharmacist and newcomer and provide the same level of medication instructions to patients (collaborative research with Saitama University and Higashi Nihon Medicom Co., Ltd.).
2. We are assessing the usefulness of pharmacist intervention for medication reduction of polypharmacy elderly patients in the nursing home (Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) Project). Additionally, we are examining the usefulness of pharmacist counseling for the proper use of topical steroids in patient with steroid phobia.
3. We are examining the possibility of a pharmacist as a keeper of self-care that is responsible for early detection of hyperglycemia, hyperlipidemia and periodontal disease by checking the blood test and oral environment in our community pharmacy.

主な論文

岩田紘樹、増尾涼、岡崎光洋、福本正勝、藤本和子、小林典子、山浦克典：脂質異常症の早期発見における検体測定の有用性および地域住民の病識に関する研究。社会薬学, 35: 80-86, 2016  
宮崎源生、岩田紘樹、小林典子、藤本和子、吉田加奈、岡崎光洋、山浦克典：検体測定室の未申請薬局における簡易血液検査の普及を阻害する要因の調査 - 検体測定室の普及・継続に向けた全国調査研究（第2報）-。医療薬学, 43: 34-40, 2017

知的財産

特開2016-65006号「DP1アゴニストとステロイドとを含有する外用剤」山浦克典、船越彩花。

